

活動記録書

開催日： 令和6年10月3日(木) 天候 晴れ時々曇り	開催テーマ： 円覚寺・東慶寺を巡る
開催場所：鎌倉市	記入者：林元一
参加人数：会 員 31名 ビジター 3名 計 34名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>コース：北鎌倉駅東口・円覚寺側（集合）～円覚寺（山門、仏殿、選仏場、方丈庭園、黄梅院、松嶺院）～東慶寺～東慶寺前（解散）～北鎌倉駅</p> <p>円覚寺は、正式には瑞鹿山円覚興聖禅寺と号する。臨済宗円覚寺派の大本山であり、鎌倉五山第二位に列せられる。本尊は宝冠釈迦如来、開基は北条時宗、開山は無学祖元（仏光国師）である。鎌倉時代の弘安5年（1282年）に鎌倉幕府執権・北条時宗が元寇の戦没者追悼のため中国僧の無学祖元を招いて創建した。鎌倉時代を通じて北条氏に保護された。元寇で戦死した日本の武士と元軍（モンゴル・高麗等）の兵士が、分け隔てなく供養されている。円覚寺は弘安10年（1287年）以降たびたび火災に遭っている。また元禄16年（1703年）の震災、1923年（大正12年）の関東大震災でも被災している。</p> <p>北鎌倉駅東口・円覚寺側にて集合の後、線路を渡り白鷺池周辺より探訪を開始した。明治時代に軍港横須賀に通じる鉄道（現・JR横須賀線）の建設にあたって、無理やり円覚寺境内に線路を通過させたため、この様な位置関係となる。再び線路を渡り、総門を通り、山門に至る。山門は天明5年（1785年）、大用国師誠拙周樗が再建したものである。「円覚興聖禅寺」の額字は伏見上皇の勅筆とされる。楼上には十一面観音、十六羅漢像などが安置される。仏殿は関東大震災で倒壊し、1964年（昭和39年）再建。鉄筋コンクリート造であるが、元亀4年（1573年）の仏殿指図（設計図）に基づいて建てられている。堂内には本尊の宝冠釈迦如来像や梵天・帝釈天像などを安置する。</p> <p>今回の探訪の開催日10月3日は、円覚寺の開山、仏光国師の命日の法要を行う開山忌の日であり、一年の行事の中でも最も大切なそして最も盛大な行事であり円覚寺派の和尚方が集まって法要を行っている。このため、屋内見学は全く出来なかったが、管長並びに和尚方数十人の行列と言う普段にないものを参観できそれだけでも十分に満足できた。</p> <p>選仏場は元禄12年（1699年）建立の茅葺き屋根の建物。坐禅道場である。内部には薬師如来立像を安置する。方丈の前庭のジャクシンの古木は無学祖元手植えと伝えられている。舍利殿は神奈川県唯一の国宝建造物であり、堂内中央には源実朝が南宋から請来したと伝える仏舍利（釈尊の遺骨）を安置した厨子がある。塔頭である黄梅院は第15世夢窓疎石（夢窓国師）の塔所。松嶺院は第150世叔悦禅憚の塔所であり、開高健（作家）、田中絹代（女優）、佐田啓二（俳優）、坂本堤（弁護士）など著名人の墓があることでも知られる。</p> <p>それらを巡る内に探訪の終了予定時刻が近づき、急いで東慶寺に移動した。東慶寺は、臨済宗円覚寺派の寺院、山号は松岡山。寺伝では開基は北条貞時、開山は覚山尼。現在は円覚寺末の男僧の寺であるが、開山以来明治に至るまで本山を持たない独立した尼寺で、江戸時代には縁切寺として知られ、女性の離婚に対する家庭裁判所の役割も果たしていた。境内見学後、東慶寺前で解散し北鎌倉駅に向かった。</p>	
<p>参加者の状況・意見など</p> <p>酷暑も一休みとなり清々しい風の吹く中、広々とした円覚寺境内をゆっくりと巡回できて満足された方が多かった。</p>	
<p>次回の予定：</p> <p>令和6年11月7日(木)10時 京急馬堀海岸駅集合 テーマ：古事記に見る弟橘媛を尋ねて</p>	